



平成 25 年 5 月 13 日

各 位

会社名 阪和興業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 古川 弘成  
(コード番号 8078 東証・大証第 1 部)  
問合せ先 秘書室長 佐藤 俊幸  
TEL. 03-3544-2387)

## 阪和興業 中期経営計画(2013 年度 - 2015 年度)に関するお知らせ

当社は、2013 年度から 2015 年度を対象期間とした「阪和興業 中期経営計画」を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

### 1. 中期経営計画のテーマ

『中長期的な国内外市場の変化を見据えた事業構築と経営基盤の強化を目指す。』

これからの 10 年間で想定される事業環境の変化に対応する最初の 3 年間と当中期経営計画期間を位置づけ、この 3 年間では、これからの変化に柔軟に対応し、しっかりとした収益を実現できる事業の構築と、事業を支える経営基盤を強固なものにすることに取り組みます。

### 2. 業績目標

最終年度（2016 年 3 月期）には、売上高 1 兆 8 千億円、経常利益 150 億円を目指します。

### 3. 事業の成長戦略

【人材・組織のベーシック理念】 ～プロフェッショナル & グローバル～

- (人材) 専門性と経営的素養を備え、ユーザーの課題を解決できるプロフェッショナル人材  
世界各地の独自性や多様性を理解し、コミュニケーションできるグローバル人材
- (組織) 高い力量を持つ個人を組織化して、組織能力を高めるプロフェッショナルな組織  
国内外組織を融合し、海外に阪和モデルを移植していくグローバルな組織

【3つの戦略概念】

#### ① ユーザー系スタンスの徹底

- ユーザーの悩み・課題に向き合い、最適なソリューションを提供
- ユーザーをサプライヤーとも捉え、互恵関係による緊密なパートナーシップを構築

#### ② 企業活動の多様化

- バリューチェーンの中で新たに求められるニーズに対応可能な事業バリエーションの創造
- M&Aやグローバル採用などで異なる文化を包摂し、能力を引き出す組織的柔軟性の保持

### ③ グループ一体経営の推進

- グループ全体の収益向上に向けた、自律と統制のバランスの効いたグループ会社の組織化
- 効率的な収益追求のための、グループ会社間の事業領域の整理や運営改善の推進

## 4. 共鳴型経営 ～バリューチェーンの最適化～

3つの戦略概念を各事業セグメントの活動における基本とし、メーカー・サプライヤーからユーザーにいたるバリューチェーンの中でその効率化や全体最適を目指して、当社グループの事業領域をサプライチェーンの中で多様化し、ユーザーの満足度を最大化していきます。

### 【各事業のキーとなる方向性】

#### ① 鉄鋼事業

- 国内・海外ユーザーのポジションに応じた最適な鋼材調達ポートフォリオの提案
- 流通センターの在庫力を核として、あらゆる階層のユーザーニーズに対応できる新たな流通システムの構築

#### ② 金属事業

- プライマリー、リサイクルの両サイドでの仕入ソースの開拓による調達力の向上と販路の拡大
- 成長が期待できるアジアへの集中的な経営資源の投下による事業強化

#### ③ 食品事業

- 水産物の原料トレードでの優位性を活かしたグローバルセールス・ネットワークの構築
- 加工品事業の強化によるリテール部門への取り組み強化

#### ④ 石油・化成品事業

- グループ会社群との協業による国内石油製品需要の掘り起こし
- リサイクルエネルギーやバイオエネルギー、電力事業などエネルギー分野の拡大

## 5. 経営基盤の強化

変化する国内外の環境にスピード感を持って対応し、あらゆる課題に対して当社グループとしての最適解を追求しながら徹底した効率化を推進していきます。

### ① グループ全体の経営基盤の強化

- 経営管理上の課題解決への総合的な取り組みの強化
- グループ各社と阪和本体の管理部門間との連携の強化

### ② コーポレートガバナンスの強化

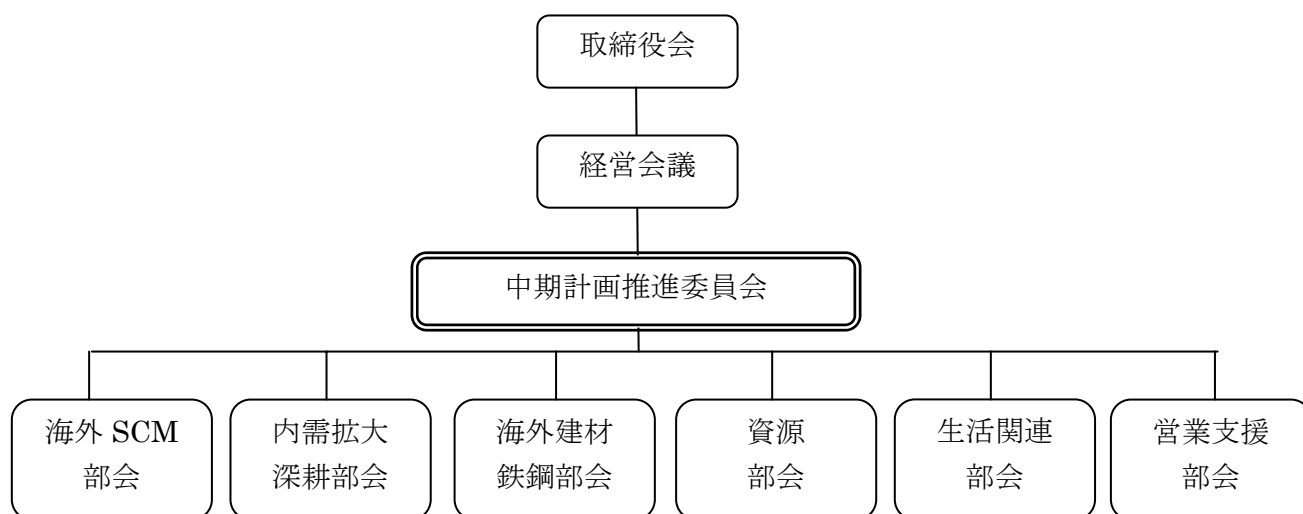
- 経営体制の整備と経営の透明性の確保
- 内部統制システムの充実
- CSR活動の推進

### ③ リスクマネジメントの維持・強化

- BCM（事業継続マネジメント）体制の構築
- 与信管理技術の向上
- グループ一体経営の推進

## 6. 中期経営計画の推進組織

中期経営計画の実現に向けた具体的戦略の推進組織を以下の構成にて設置し、計画の実行・検証を進め、進捗報告や施策提言を経営層に対して行っていきます。



以上